あとがき

今にして思えば、日本の沿岸漁村地域の研究に興味を持つようになったのは、漁港漁場漁村技術研究所（現漁村総研）でアルバイトをしていた学生の頃である。当時、水産庁で進めていた「都市漁村交流事業」の学生支援団のメンバーとして、「浦島太郎の里」として知られる京都府伊根町の本庄浦というところへ派遣され、一週間ほど滞在しながら地元の活動を手伝う機会があった。

本庄浦は、丹後半島に立地し、資源状況の悪化から地域経済の活力が低下し続けてきた今日の典型的な日本の漁村であるが、疲弊した村の活力を呼び戻すことを目的に様々な努力をしていた。そのような頑張る地域で、親切と優しさだけでは表現しきれない地元の方々との１週間にわたる触れ合いによって、日本の地域が好きになったのかも知れない。「まだ何の力にもなれない自分ではあるが、いつか力になれる日を夢見てこれからの勉強と研究に励みたいと思う」と、活動後のレポートに綴ったことがまだ記憶に新しい。

そのような想いを、東幡豆という地域と付き合いながら抱いているこの頃である。研究調査のためにいろいろな地域を訪れているが、数年にわたって足を運んでいるのは東幡豆が初めてである。それこそ私の研究者人生の「はづ恋」の場所である。

本書を手掛けるようになって、思った以上の大変な作業に追われながらも、一方では、学術論文では伝えられない地域への「想い」をこのような形で伝えることができ、大変幸せな時間を持つことができた。今後も、ぜひ地域に「科学」と「想い」を伝える活動を続けていきたい。

2017 年 3 月　李 銀姫

● 編 者

李 銀姫　Yinji Li　（東海大学海洋学部・准教授）

1977 年中国生まれ、博士（海洋科学）。海洋政策研究財団研究員、東海大学海洋学部講師を経て現在に至る。専門は沿岸域管理、地域経済。日中韓における沿岸漁業管理の仕組み、沿岸域の利用と管理の仕組み、漁村地域経済や活性化に関する研究を行っている。著書に、『幡豆の海と人びと』（総合地球環境学研究所、2016 年、分担執筆）、『変わりゆく日本漁業－その可能性と持続性を求めて』（北斗書房、2014 年、分担執筆）等

● 編集協力

本間咲来　Saki Honma

総合地球環境学研究所エリアケイパビリティープロジェクト研究推進支援員。
東幡豆には 4、5 回訪れており、少しずつこの地域がわかってきたところ。制作進行の面で編者をバックアップしました。

木村文子　Ayako Kimura

総合地球環境学研究所エリアケイパビリティープロジェクト事務補佐員。
新鮮な目で東幡豆を感じ、コラム下の旅日記を楽しみながら作成。「今」の写真もたくさん撮りました。

● 写真収集と聞き取り調査を手伝ってくれた東海大学海洋学部の学生たち

木下広夢　Hiromu Kinoshita
（東京都出身）

地元への一言：
東幡豆の海や地域の方々と直接触れ合うことができ、貴重な経験ができました。
卒業研究テーマ：
今昔写真展「幡豆の海と人々」を通じた海洋環境意識の涵養に関する一考察

大芝颯太　Sota Oshiba
（静岡県出身）

地元への一言：
美しい自然と親切な方々に囲まれた東幡豆で研究ができてよかったです。
卒業研究テーマ：
幡豆の海と人々の今昔比較研究（共同研究）

清水啓介　Keisuke Shimizu
（神奈川県出身）

地元への一言：
親切に接していただきありがとうございました。また観光に行きます。
卒業研究テーマ：
幡豆の海と人々の今昔比較研究（共同研究）